



TITLE:

京大上海センターニュースレター 第94号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科上海センター

CITATION:

京都大学経済学研究科上海センター. 京大上海センターニュースレター 第94号. 京大上海センターニュースレター 2006, 94

ISSUE DATE:

2006-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/26411>

RIGHT:

京大上海センターニュースレター

第 94 号 2006 年 1 月 31 日

京都大学経済学研究科上海センター

目次

○上海センター「中国東北振興講演会」のご案内

○上海センター「比較経済改革セミナー」のご案内

○第5回京都大学ーソウル大学国際シンポジウムのご報告

+++++

上海センターセミナー「中国東北部振興における日本の役割」のご案内

以下のようなセミナーを企画しました。講演者はお二人とも日本語がお上手ですので、日本語でのご報告をお願いしております。

日時 2006年2月28日(火)2:00-

講演者

楊棟梁 南開大学日本研究院院長

「中国東北部振興における日本の役割」

玄東日 中国延辺大学人文社会科学学院副院長

「図們江・羅津ルート開発の新しい可能性について」

会場 経済学研究科3F 第311教室

+++++

上海センター・セミナー「共産党政権下の経済改革を比較する」のご案内

開催日時 2006年3月4日(土)13:00-17:30

会場 経済学研究科第311教室

開会挨拶 山本裕美(京都大学経済学研究科上海センター長)

会議の趣旨説明 大西 広(京都大学経済学研究科教授)

報告と討論

第Ⅰ部 ラオスとベトナム(通訳あり)

「ラオスにおける経済改革の特徴について」(13:20-14:20)

スサバンディット・インシエンメイ(ラオス計画投資委員会国家経済調査研究所)

「ベトナムの経済改革と比べたラオス改革の特徴について」(14:20-14:40)

ヌゲン・ノグトアン(ベトナム国立政治アカデミー専任講師)

討論(14:40-15:15)

休憩

第Ⅱ部 キューバと中国

「キューバにおける経済改革の特徴について」(15:30-16:30)

新藤通弘(アジア・アフリカ研究所・研究員)

「中国の経済改革と比べたキューバ改革の特徴について」(16:30-16:50)

大西 広(京都大学経済学研究科教授)

討論(16:50-17:25)

+++++

第5回京都大学ーソウル大学国際シンポジウムのご報告

1997年に始まった京都大学経済学研究科とソウル大学校経営大学・ソウル大学校経済学部との共催による国際シンポジウムは、今年で第5回をむかえた。今回は、京都大学経済学研究科上海センターの主催、京都大学経済学研究科 21 世紀 COE プロジェクトの共催で、2005 年 12 月 14 日と 15 日の 2 日間、京都大学芝蘭会館で開催された。メインテーマは「東アジア経済の発展と課題」であり、ソウル大学から 4 名のゲストをお招きしておこなわれた。

初日第 1 セッションは、バブル崩壊後特に問題として取り上げられるようになった日本の銀行システムについて扱った。

趙成旭副教授の報告は、「刈取り型から底支え型へ：日本における銀行問題の原因」と題する極めて実証的計量的なものであった。日本開発銀行の集めた 1956-2001 年にわたる約 60000 の時系列貸出先企業のパネルデータを駆使した分析が導いた結論は、まず 1956-1972 年期間には利益率の高い企業に効率的に貸し出しをできていた日本の民間銀行が、その後より利益率の低い企業や中小企業に重心が移動する下で、土地などへの過剰な投資に向かったこと、さらにその原因には信用評価能力の高い政府系金融機関が優良な貸出先を民間銀行から奪ったことにあった、というものであった。

吉田和男教授は、「日本の銀行システムにおける銀行改革」と題した報告をおこなった。以前、大蔵省に在籍していた際の経験を下にしたこの報告では、バブルの発生からその後の銀行改革に至る過程を丁寧に辿ることが行なわれた。米ドルの為替不安に対応した低金利政策が資産価格を引き上げ、それが自己実現的にバブルを生み出したが、それは論理的に持続しなかったということ、また、その後のバブル崩壊によねる不良債権がいかに経済全体に悪影響を与えたかということ、そして最後にその対策としての銀行の大型合併や政府政策の動きが紹介された。

第 2 セッションでは、国際通貨レートと資本移動に関するテーマが論じられた。

金載永副教授の「ウォン・円レートのカップリング(連動)またはデカップリング(非連動)」は、日本と韓国の為替レート変動における非線形ビヘイビアに関する研究である。この研究では、ウォン-ドルと円-ドルという 2 つのドル表示による為替レートにおける「変動幅に回帰する行動」(band-reverting behavior)が存在すると仮定する。「変動幅に回帰する行動」は、2 つの経済の間と同じように、それら経済の為替レート体制にも依存しよう。1998 年の金融危機以後の韓国では為替レート政策において、韓国経済に重要な結果をもたらすかもしれない変化があった。まず、2 つの通貨の関係において変化があったかどうかをテストする。そのテストの結果にもとづき、金融危機の前と後の時期におい

て、一対の為替レートの「変動幅に回帰する行動」を分析する枠組みを打ち立てる。この分析の結果は、2つの通貨の価値において、「変動幅に回帰する行動」の均衡関係が存在したこと、およびその様な関係が東アジア金融危機の後に変化してきたことを明らかにした。

岩本武和教授の「国際資本移動研究に関する新動向」は、ルーカスの逆説や順循環的資本移動のように、従来の新古典派経済学ではうまく説明できない国際資本移動における事実をおさえたうえで、それらの現実を説明する上で有益な別の2つの接近方法、オーバーボローイング・シンдрローム・モデルと原罪仮説を検討した。オーバーボローイング・シンдрローム・モデルは、新興市場におけるオーバーボローイングはもっぱら情報の非対称に由来するものであり、原罪仮説はマクロ経済における成長は外国通貨建て債務の順循環的資本移動と相関があることを示していると論じた。

銀行融資によるオーバーローンをもたらし、必要以上の米ドル建て債務を軽減する手段として、地域通貨による債券市場をつくること、そのためには債務担保証券のような証券化の手段が有効である。その意味で日本政府と韓国政府が合意した、円建てで韓国が支援する形の韓国 CBO は、将来の東アジア地域金融システムの先駆的なモデルになるであろうと結論づけた。

2日目の第3セッションは応用ミクロの報告であった。

金真教助教授の「ランダム効用関数フレームワークにおけるパラメータ進化のモデル化」は、離散選択モデルにおけるランダム効用関数のパラメータ値が時間とともに変化することを想定して、その変化過程のモデルを組み込んだ形でパラメータを推定する方法について検討した。洗剤のブランド選択に関するパネルデータを用いた実証分析の結果、パラメータ・ダイナミックスが有意に存在することが確かめられた。

依田高典助教授の「日本の携帯電話需要の離散選択モデル分析」は、ミックス・ロジットモデルを用いて、消費者の携帯電話タイプ選択行動を分析した。選択肢は異なるブランドの第2世代および第3世代、そして PHS である。分析の結果、同じブランド内で第2世代か第3世代かという選択肢間の代替性が大きいこと、そして電子メールやカメラ機能などの諸機能に対する弾力性は低いことが明らかになった。

第4セッションは、国際経済を取り扱った。

李根教授の報告は、「制度と組織の両者は重要であるが、異なる所得水準では異なる：長期の経済成長における東アジアとラテンアメリカの比較」であった。この報告のテーマは近年長期の経済成長に関する論争を引き起こしている。本報告の分析手法はクロスセクション分析のみならずパネルデータによるシステム GMM 推計であることが特徴的である。その手法は、少数のサンプル、省略された変数、説明変数の内生性の問題点等のようなクロスセクション分析に伴う偏りを回避できるのである。本報告のファクト・ファインディングは、技術や高等教育のような新しい政策変数の成長効果を確認したこと、中等教育と制度がより低い所得水準の国には重要である一方、技術や高等教育が中位の上位の所得国と上位の所得国の成長に有効であるが、下位の中下位の所得国には有効でないこと、であった。

ジャン・クロード・マスワナ講師は、「アジアとアフリカの経済発展の類型比較」と題して報告した。1960年代以降のアジアの高度成長の原因として輸出志向の諸政策、国際化、社会資本と同様に強い物的人的資本蓄積も挙げている。それとは逆に、サブサハラ諸国は1970年代中葉から経済停滞に陥り、生活水準も下降している。アジアとアフリカの格差の拡大は農業生産性、工業部門の成長、輸出に見られる。本報告はこれら2つの地域の発展のパターンについてアジアの高度成長経済は「自己整合的発展モデル」と規定し、他方アフリカが東アジアの経済成長の経験を再現できるという推論は妥当性がないと結論付けた。以上の報告について、それぞれ活発な討論がおこなわれた。参加者はのべ 140 人に達し、

議論では日本語、韓国語、英語が使われる国際色のあるシンポジウムになった。議論は後のレセプションまで持ち越され、今後の継続的な開催と学术交流のさらなる発展が期待された（文責 堀和生）。